

H2年6月検査入院（特発性浮腫）。

H3年9月：上記症状に対し、カルナクリン、ルジオミール、グランダキシン、カランなど効果なし。桂枝加朮附湯7.5g、3×服薬したところ「まず一服して30分位して右上下肢がポーッと暖かくなりました。ジーンとしたしびれは残っているが気持ちいいです。寒気に当たった時に感じる刺すような痛みは殆ど完全に止まりました。スカートだと外気に曝されるのではなかったのですが、本当に久し振りにはけるようになりました」と奏効した。この作用は本処方による血行の改善などが考えられる。

3. 大腸内視鏡検査における芍薬甘草湯の効果

（谷津保健病院）

新井 信・鳥居 信之・藤野 信之

（消化器内科） 小幡 裕

西洋医学と東洋医学の融合である“中西合作”の検査への応用の新たな試みとして、大腸内視鏡検査における芍薬甘草湯の除痛効果について検討したので報告する。

対象：最近3カ月間に当院内科にてtotal colonoscopyを施行した計25名。内訳は芍薬甘草湯投与群13名、非投与群12名。

方法：芍薬甘草湯は検査30分前に内服し、検査中の最高血圧の比と脈拍数の比を疼痛の評価の指標とした。

結果：最高血圧比×脈拍数比において芍薬甘草湯投与群が有意に疼痛を軽減した。自覚症状、検査時間に明らかな違いはなかった。

考察：芍薬甘草湯を用いた新しい大腸内視鏡除痛法は、患者の苦痛緩和にある程度有用な方法と考えられた。

4. 半夏厚朴湯が奏効した可逆性上気道閉塞の2例

（呼吸器内科） 兼村 俊範・山口恵理子・

千代谷 厚・金野 公郎

（大原総合医療センター内科）永井 厚志

吸気時の著しい喘鳴とともに呼吸困難を主訴として入院した患者で、心因性の可逆性上気道閉塞が考えられ、半夏厚朴湯投与により著明に改善した2例を経験したので報告する。

いずれも吸気時に上気道の閉塞を認めたが、各種検査により器質的疾患は除外され、精神安定剤などの投与が効果的であることや、心理テストにて軽度のうつ、神経症傾向などが認められた。心因性の気道狭窄症状と判断し、半夏厚朴湯（7.5g/日）を投与したところ数

日後より喘鳴や呼吸困難は徐々に軽快し、ついにはほとんど消失するに至った。心因性可逆性の上気道閉塞に対して半夏厚朴湯が著効した例と考えられた。

5. 柴苓湯によるラット視床下部一下垂体一副腎系への影響

（内科2）

岩井 泉・中野 頼子・戸沢 史子・

須田 俊宏・出村 博

ラットの視床下部一下垂体一副腎系に及ぼす柴苓湯の影響について検討を行った。

Wistar系雄ラットに柴苓湯0.01~1.0g/kg BWを胃ゾンデにて急性投与し、血中ACTH、コルチコステロン、下垂体前葉(AP)のACTH、および視床下部正中隆起部(ME)のCRFの各濃度変化を検討したところ、血中ACTHおよびコルチコステロンは0.2g/kg BWから用量反応的に増加した。

ラットの両側副腎を摘出し、それにコルチコステロンの補充を行いコルチコステロンによるACTH分泌抑制効果を、柴苓湯が更に増強するか否かを検討した。この両側副腎摘出と柴苓湯の慢性投与の結果から柴苓湯は副腎摘出によるCRF、ACTH分泌増加に及ぼすコルチコステロンの抑制作用を増強するよりもむしろCRFとACTHの分泌と合成を促進する可能性が示唆された。

以上、柴苓湯の視床下部一下垂体一副腎系に及ぼす急性および慢性実験の結果から柴苓湯は視床下部一下垂体一副腎系に対し、促進的に作用すると思われた。

特別講演 漢方（ブシ）の鎮痛作用について

（弘前大学名誉教授、

ツムラ薬理研究所所長） 尾山 力

漢薬附子はキンボウゲ科トリカブト属(Aconitum)植物の塊根から得られる生薬であり、漢方においては、虚寒症の患者の衰えた新陳代謝を改善する作用を有するとされ、疼痛、厥冷、麻痺などの症状に用いられる。中国では鎮痛の目的で附子が長い間用いられてきた。しかしながら、その毒性が非常に強いことから、日本では加熱処理をして減毒された修治ブシ末として用いられている。RCS（反復低温ストレス）は、飼育環境温度を室温から低温に繰り返し変化させて動物にストレスを与え、痛覚過敏状態になった動物を作製する方法である。そこで、ツムラ修治ブシ末の鎮痛作用についてRCS負荷ラットを用いて検討し、その鎮痛効力をツムラ生ブシ末、メサコニチン、モルヒネ、ノイロ